

令和7年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	13	学校名	浜松特別支援学校城北分校	記載者	園田 一哉
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア <授 業> 個別最適な学びと協働的な学びを実現する学校				
生徒が夢中になれる学校生活づくり	時期毎、取り組むべきことを明確化・焦点化している。	A	A	<p>生徒の学校生活に対する不満の真意を精査し、決して学校が委縮することがないようにと思う。</p> <p>生徒一人一人が学校生活の中で目標をもって取り組んでいる様子が分かり良かった。</p> <p>短期的な目標を定め、明確化、焦点化することにより、生徒のやる気、意欲が向上、持続できると考える。</p> <p>生徒の「充実している」の回答が多いことはすばらしい。</p> <p>コミュニケーションが苦手な生徒が多く、コミュニケーショントラブルが多いのではないかと。トラブルが起きた際に、教員がアドバイスし解決するのではなく、生徒同士で解決できると、大きな学びになるのではないかと。</p>
個別最適な学びの充実	学びのプロセスと個々の成長を想定した支援目標及び個別の指導計画に基づいた指導ができている。	A	A	<p>定員増に伴う教員の負担感を拾い上げられるようなシステム(県全体の話)が必要だと思う。</p> <p>一人一人の生徒の特性を生かした日々の指導、生徒指導が大事だと考える。</p> <p>社会人、職業人としての意識(挨拶、返事、人と目を合わせる、姿勢など)、規律が理解できてきている。ただ、教員先導ではなくもっと生徒主体になると良い。</p>
協働的な学びの充実	集団で取り組む良さを生かした授業づくりを実践している。	A	A	<p>定員増で大きな集団になることで良い面とさらにマイナス面も相乗効果として現れると思う。マイナス面に臆することなく前向きに捉えてほしい。</p> <p>共生、協調、協働と一人一人のつながり、認め合うことの大切さ、様々な考えがあることを実感することが大事だと考える。</p>
自立活動の充実	教育支援計画を基にアセスメントを行的確な指導目標を導き、教育活動全体を通じた指導の中で効果的な学習ができる。	A	A	<p>一人一人にかかる時間が少しでも生み出せるような実際の余裕と精神的な余裕をもてるように、外部としてもできる限りの協力を惜しまない。</p> <p>学習、授業を含め、学校生活全般にわたり、生徒一人一人の自立を目指した先生方の熱心な取り組みに敬服する。</p>

作業学習の充実	達成したい目標とは何かを明確にした授業づくりをしている。授業や单元ごとに個々の学びを共有できている。	A	A	<p>生徒の実態の幅が広がっている中で、どの子にも対応できるように作業内容を考えられているようで良かった。</p> <p>生徒一人一人の能力、意欲に応じた日頃の先生方の熱心な取り組みが生きて働く力となっており、目標を明確にした授業づくりが活かされていると考える。</p> <p>作業学習で忍耐力、持続力、継続性、やりきる力が育っているように思う。生徒自身が目標を立てることも必要だと思う。また、作業日誌を書くことで生徒自身が問題点や次への改善点を明確にすることができている。</p>
ICT 活用の促進	ICT を活用した授業づくりをしている。	A	A	<p>最近のAIの問題は、この先どのような影響が出てくるのか、考えないといけない課題である。(社会ではAIに相談するケース増)</p> <p>情報通信技術の能力、活用は人をつなぐ技術としても現実社会、学校教育では欠かすことのできない学習であると考えている。</p> <p>タブレットの使用が少ないように思う。日常生活で当たり前に使える道具となってほしい。ICTとの付き合い方、メリット、デメリット(危険性)の指導もあると良い。</p>
健康指導、性の指導の充実	生徒の実態に応じた健康に関する指導ができている。	A	A	<p>健康面については、卒業後に最もベースになると思う。在学中にできること、この先課題になることなどをしっかりと次に伝えられるようにすることが大切である。</p> <p>健康、性は生徒の成長、生活の根幹に係る大事な指導であり、成長する学年を通して系統的な指導が大切だと考える。</p> <p>思春期講座、家庭科での調理実習等、生きる上で知っておく基礎知識の授業が行われている。</p>
道徳指導の充実	各教科等で道徳指導の観点を押さえた指導を行っている。	A	A	<p>「観点の職員間の共有」の必要性が分からなかった。</p> <p>学校生活全般に渡っての道徳観に立った指導が実践されていると感じる。一つの大事な教養につながるものと考えている。</p>
イ <安全・安心> 命と人権を大切にしている学校				
命を守る意識と行動力の向上	COCOO を活用した安否確認に慣れ、開封率・回答率100%を達成している。生徒自身の意識が高まる働き掛けや指導ができている。	A	A	<p>安全・安心な学校生活を送るには命を大切にしている学校教育は何より大事だと考える。</p>

様式第5号

安全・快適な環境づくり	安全や事故防止を意識した教育活動及び環境設定に取り組んでいる。	A	A	「起きてしまったからでは遅い」と分かっているにもかかわらずいろいろなことが起きる。その時々でしっかりと反省することしかできないと思う。様々な活動、場と機会を捉えて充実と深化を図ることが求められる。きめ細やかな日頃の指導に敬服する。
事故防止の強化	けがや事故の予防を心掛け、実態に応じた配慮を行っている。	A	A	
人権を守る意識と行動力の向上	学校が生徒の居場所（安心する場）となるよう、人権を意識した言動を心掛けている。いじめアンケートを実施し、アンケート結果に応じて対応をしている。	A	A	「人権感覚」「人権意識」については、しっかりと意識の統一が必要だと痛切に思う。何度も繰り返し教職員自身が学び直す必要がある。SNS等を使った教員には見えないいじめ等についての対応は大変だと思う。 人権教育の重要性を踏まえ、日頃からの具体的な実践の積み上げが大事だと考える。いじめ等は見えない部分もあるので、生徒の細かな表情や普段と異なる言動等にも心を配り注意していくことが大切だと考える。 生徒に向けた人権に関する学習は有意義だと思う。（子どもから、人を尊重した発言が聞かれる。）
相談体制づくり	校内で生徒が相談しやすくなるために面談の機会を設定している。	A	A	生徒達の「相談する力」をどのように付けるかという視点も必要だと思う。 何でも相談できる雰囲気づくりも必要。 面談の機会の設定も大事であるが、それ以上に先生方が生徒の気持ちや思い、考えを聞く力が必要なのは。意見やアドバイスを与えるより、生徒が自ら考えて、思いを整理したり解決したりすることができるよう、聞く・受け止める力が必要だと思う。
ウ <協働> 家庭、地域、関係機関と協働して支援する学校				
発信力の向上	学校を知ってもらえる伝え方、発信の仕方を工夫している。	A	A	ホームページ、Instagram等が城北分校を知ってもらいきっかけになっていると思う。
進路指導の充実	生徒の「夢」を育み、本人・保護者の「願い」を大切にしながら進路指導を行っている。	A	A	生徒自身への教育ももちろんですが、それ以上に「親」「保護者」への教育が重要だと思う。学校が言いにくいことは「外部を使う」ことも有効な方法だと思う。 生徒や保護者の願いに寄り沿った温かい指導がなされていると思う。生徒の夢や希望が叶えられるよう進路指導が充実しているように思う。 教員は達成感が高いが、保護者の1割は進路指導に関して不満をもっていてズレを感じる。

				原因を考え、ズレを解消できると良い。 個々のバックグラウンド、将来的なことまで考えた進路指導ができると良い。
センター的機能の充実	高等学校のニーズに対応するため、教育相談、研修支援等への依頼に応じている。	A	A	
エ <チーム> 教職員が夢を持って学校づくりに参画し働きがいを感じる学校				
コミュニケーション力の向上	働きやすいチームとなるよう、相手の立場に立った伝え方、受け止め方を心掛けている。	A	A	束になって立ち向かわないといけないことがますます増えていると思う。人と関わる以上は、自分自身が変わることが前提。教員同士がコミュニケーションが取れなければ、生徒に向き合えないですね。 何でも話し合える場(自由)が常にあるようで良い。特に生徒のことをなるべく全体で話し合えると良い。 大切で、ためになることを、楽しくやるという3T論が必要。先生方は学校がより良い働き甲斐のある学校を目指していらっしゃることに敬服している。 教員間の共通理解不足を感じるがあった。
働き方改革の推進	週に複数回、空き時間を確保している。	A	A	「学校」の余裕が何より。少しでもゆとりがもてるように学校運営協議会としてできることがあれば言ってほしい。 多様で柔軟な働き方を自分で選択できることは、生徒への指導にも生かされ、より良い将来の展望がもてるようになると思う。 前年度に比べ、改善が感じられる。
	時間外勤務45H/月以上が連続する職員はいない。	A	A	
倫理観の向上	不祥事0件	A	A	